
薬

一健一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

薬

【Zマーク】

N7973C

【作者名】

一健

【あらすじ】

私たちもきっと彼らに待たれているはずですよ

「おー、また一組リストラだつてよ。」

「またか、お上の奴も容赦無いねえ」

「しつかし、見事なまでに来なくなつたなあ、田元一人一人は当たり前だつたのに」

「あれ？お前まだ知らないのか、」

「なにを？」

「なんでも、すごい薬が発明されたらしいぞ」

「どんなのだよ」

「・・・・・って尊だぜ」

「お前それは無いだろ、あいつらがそんなもん作れるわけ無いだろ」

「いや、それが本当なんだよ、じゃなきゃこの状況の説明がつかないだろ」

「そりや、そうだけどよ」

「それにしても、せめて景色ぐらい何とかならないのか？こう真っ白だと気が狂うやうだぜ」

「ここに来たとき」、「この景色が和むつて言つてた奴はだれだよ」

「そのときはそのときだろー」

「お前ここ一ヶ月で何人送つていつた?」

「えつと、たしか八人だな」

「じゃあ、俺より一人多いか」

「次来たらお前が行けよ」

「ん、わかった。」

「おい、起きる、リストが来たぞ」

「お、来たか、どれどれ」

「どうだ?」

「平々凡々な奴だよ、」

「なんでも、悩む必要なしか」

「さつさと天国まで送つてこよ」

「ああ、行つてくるよ」

そう言つた青年の一人は、頭に黄色いわつかをつけると、背中に生えた純白の羽で、死人を迎えていった。

「しかし、人間が不老不死の薬なんかを作れるとはおもつてなかつたぜ、おかげで商売あがつたりだ」

「僕死んでしまつたんですよね？ 天使さん」

「私は、あなたを天国へお送りし…………。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7973c/>

薬

2011年1月21日15時07分発行